

氏らの文教族)とその支配下の文部省だ。

民主党が7月参院選の公約として「文部省解体」を打ち出したとのことだが、この点に関しては大賛成だ。文部省廃止論はかなり以前から一部で唱えられていたが、このさい教育の国家統制の巢窟を解体し、地方分権を徹底させることが、真の教育建て直しへの第一歩である。

なお、教育学は教育悪化に対して、何をしてきたのだろうか。一部の実践的な教育学者の活動も見られるが、更に専門的立場からの積極的な提案が期待される。(元高校教員)

「機会不平等」許すまじ

西川伸一

恐ろしい本を読んだ。斎藤貴男『機会不平等』(文芸春秋、2000年)である。教育改革国民会議の座長でノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈氏が、著者のインタビューに答えていわく、「ある種の能力の備わっていない者が、いくらやってもねえ。いずれは就学時に遺伝子検査を行い、それぞれの子供の遺伝情報に見合った教育をしていく形になっていきますよ」。

教育の原点は生得原理を否定することではなかったのか。人は親を選んで、すなわち遺伝子を選んで生まれてくること

はできない。本人の努力ではどうしようもない要素に基づいて社会を組み立てることを、思想として放棄したのが近代の民主主義社会であったはずだ。それに代わって重視されたのが機会平等に基づく業績原理である。しかし、江崎氏はじめ、竹中平蔵氏、中谷巖氏といった現在の売れっ子学者の耳ざわりのいい発言も、よく吟味すると機会不平等を肯定する観点に満ち満ちていることを、本書は明らかにしている。

「みんなで平等に貧しくなるか、頑張れる人に引張ってもらって少しでも底上げを狙うか、道は後者しかないのです」(竹中氏のコメント)。

この生得的に「頑張れる人(子ども)」を優先的に育成し、それ以外の子ども(「非才・無才」——三浦朱門・教育課程審議会前会長のことば)は彼らの邪魔にならないようにほどほどの教育を与えればよい、というのが「ゆとり教育」の真の意図なのだ。不平等を是正するのではなく、むしろ広げたほうが社会の「活力」につながる……? 今回の「教育改革」はそのためのシステムづくりと位置づけることができる。たとえば、「選択」が強調されるが、県内全域を通学区域とする「県立中学」(高校に併設、中高一貫教育の一形態)を選べるのは、生得原理に恵まれた子どもたちがほとんどではないのか。

以上の考え方の源流をたどっていけば、社会ダーヴィニズムに行き着く。ア

ダム・スミスの「見えざる手」を支持したダーウィンは、市場と同様に自然界においてもそれぞれの生物は利己的に自己の利益を極大化することで、合理的な調節を行っていると言った。すなわち、自然淘汰である。

19世紀のブルジョア階級は、ダーウィンの主張をふたたび社会へと適用しなおして自らの経済行為を正当化した。労働者階級に対する搾取も帝国主義的侵略も「合理的な」自然淘汰のプロセスであり、自分たちの利益極大化は結局は、社会にとって好ましい結果をもたらすことになるのだ、と。21世紀のブルジョア階級やそのスポークスパーソンの学者たちがさかんに言いふらしている「グローバルイズム」は、実はこの焼き直しでしかない。もちろん、現在の「教育改革」でもくろまれているのは、こうしたイデオロギーの刷り込みであろう。

「わたしたちの教育改革」が求められるゆえんである。(明治大学教員)

心の教育に反対する

真崎洋

曾野綾子らは、「心の教育を」という。そのために、教育基本法を「改正」する必要があるとも。彼らのいう「心の教育」とは、道徳教育、愛国心教育だ。

このような主張を、労働者は断じて認

めることはできない。

第一に、それは、観念論である。彼らは、教育の荒廃、「子ども達の危機」の本当の温床は、退廃し、行き詰まりを深める資本主義の社会であるのに、それを偽り、覆い隠している。それだけではない。彼らは、戦後教育の欠陥がどこにあるのか、それを克服するのに何が必要なのかも覆い隠している。

ドブローリュエボフもいうように、自然や社会についての認識が明晰であれば、徳性や情操は、おのずと養われる。そして、そのような明晰な認識は、ルソーやペスタロッチ、オーエンらが主張してきたように、知識の教授が現実の生活、実践と結びついて行われるときに初めて保障される。

戦後教育の欠陥は、「知育偏重」、「徳育の欠如」にあるのではない。反対に、子ども達に本当の意味での知育を保障することができなかったこと、すなわち生活、実践と切り離された断片的な知識のツメコミを子ども達に強いてきたことにある。受験制度、受験戦争は、この傾向を助長し、加速し、子ども達の心を荒廃させ、利己主義を育ててきたのだ。

実際には、道徳教育なるものは、子ども達の合理的な精神を抑圧し、秩序に対する盲目的な服従を強いるものにほかならない。また、愛国心教育は、子ども達の心に民族主義、国家主義を育てて、支配階級の軍国主義を強める。

それゆえ、われわれは、「心の教育」な

わたしたちの教育改革：緊急アンケート 35